

公立大学法人青森県立保健大学  
平成24年度 業務実績評価書

平成25年9月

青森県地方独立行政法人評価委員会



# 目 次

第一	評価の基本的な考え方	-----	1
第二	評価の結果		
1	全体評価		
(1)	総評	-----	3
(2)	業務の実施状況	-----	4
(3)	組織、業務運営等に係る改善事項等	-----	4
2	項目別評価		
(1)	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）	-----	5
(2)	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）	-----	6
(3)	教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）	-----	6
(4)	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画	-----	7
(5)	財務内容の改善に関する目標を達成するための計画	-----	7
(6)	教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに 当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画	-----	8
(7)	その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画	-----	8

## 第一 評価の基本的な考え方

青森県地方独立行政法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条第1項及び第2項の規定に基づき、公立大学法人青森県立保健大学（以下「青森県立保健大学」という。）の平成24年度における業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、青森県立保健大学の年度計画に定めた事項ごとにその実績等を明らかにした業務実績報告書及び法人への聴取等に基づき調査・分析を行い、その結果を踏まえて「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

### 1 項目別評価

中期計画に掲げる次の事項ごとに、中期計画の達成に向けた業務の進捗状況及び特筆すべき事項の内容を総合的に勘案して、5段階により評価する。なお、教育研究については、その特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、外形的な進捗状況を評価する。

- (1) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）
- (2) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）
- (3) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）
- (4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画
- (5) 財務内容の改善に関する目標を達成するための計画
- (6) 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画
- (7) その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画

〔5段階〕

- 5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
- 4：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。
- 3：中期計画の達成に向けておおむね順調な進捗状況にある。
- 2：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。
- 1：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

### 2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、平成24年度における業務実績の全体について、記述式により総合的に評価する。また、必要がある場合は、業務運営の改善その他の勧告をする。

青森県地方独立行政法人評価委員会委員及び専門委員

区 分	氏 名	役 職 等
委員長	昆 正 博	元弘前大学教授
委員（委員長職務代理者）	久 保 薫	学校法人青森田中学園 学園長
委員	青 木 智 美	公認会計士・税理士
委員	北 畠 祥	日本政策金融公庫青森支店長
委員	吉 井 仁 美	企業組合かぶあがり代表理事（八戸市水産科学館館長）
専門委員（大学関係）	栗 野 ヤエ子	青森中央短期大学教授

## 第二 評価の結果

### 1 全体評価

#### (1) 総評

青森県立保健大学は、人々の健康と生活の質の向上に寄与することを理念とし、人間性豊かでグローバル化と地域特性に対応できる能力を兼ね備えた保健、医療及び福祉の中核的役割を果たすことができる人材を育成すること、並びに保健、医療及び福祉の教育研究拠点として培った人的資源や教育研究成果を広く還元するとともに、産学官の連携した取組による地域貢献活動を展開することを使命としている。

第1期中期目標期間（平成20年度から平成25年度まで）の5年目を迎えた平成24年度は、教員の教育能力の向上や学生へのキャリア支援の強化などにより、各種国家試験合格率及び就職率については高水準を維持しており、高い成果を上げたと認められる。

年度計画については、中期計画の目標達成に向けて一部取組に遅れが見られる事項が認められるものの、全体としてほぼ計画どおりに実施しており、総じて順調な進捗状況にあると評価できる。

年度計画を十分には実施していないと判断される取組については、平成25年度が中期目標期間の最終年度であることを踏まえ、より一層の取組の強化を求めるものである。

今後も、理事長のリーダーシップの下、理事・教職員等が一丸となり業務運営に参画し、青森県立保健大学の使命を適切に果たし、県民や地域社会への貢献に向けた取組を推進することを期待するものである。

## (2) 業務の実施状況

業務の実施状況は、一部努力を要する事項が認められるものの、全体としては年度計画に定めたほとんどの事項は着実に実施されており、大きな問題は見られず、総じて中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

- ・教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関しては、FD研修<sup>※1</sup>等の実施による教員の教育能力の向上や国家試験対策等のキャリア支援の強化などにより、各種国家試験合格率や就職率は高水準を維持している。また、Web-ラーニングシステムの導入による社会人院生の学習環境づくりも推進している。さらに、自殺予防プロジェクトなどの学科横断的・学際的プロジェクト研究が推進されていることは、評価できる。
- ・業務運営の改善及び効率化に関しては、監査業務体制や教員人事評価システムの検証が必要と考えられる。
- ・財務内容の改善に関しては、経費削減に対する様々な取組や外部研究資金の獲得の推進が図られた結果、剰余金を生み出す結果となっている。
- ・教育・研究及び組織・運営の状況について自ら行う点検・評価等並びにその他業務運営に関しては、着実に実施されている。

※1 ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development)。教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。具体例として、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会など。

## (3) 組織、業務運営等に係る改善事項等

特に改善勧告を要する事項はない。

## 2 項目別評価

(1) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）

評価

4：中期計画の達成に向けて  
順調な進捗状況にある。

学士課程に関して、リベラルアーツ教育<sup>※2</sup>においては、導入科目<sup>※3</sup>を新たに2科目開設するなど年度計画を着実に実施しているが、専門教育の充実においては、中期計画に掲げる講義内容の充実と演習・実習の改善に係る6つの命題について、講義等への反映状況を客観的に把握するための点検が十分に実施されていない。

大学院課程に関して、院生の実践的研究能力の育成及び研究促進において、研究論文の発表数が少ないなど全般的に目標達成に向けて遅れが見られる。また、博士前期課程については、収容定員が充足されていない。研究促進や入学者の確保に向け、多数を占める社会人院生への対応など、現状を踏まえた見直しが必要である。

教員の教育能力の向上に関して、FD研修等の実施は年度計画の目標を達成しているものの、教員業績評価結果は目標を下回っている。これに対応するために評価対象の範囲等の見直しを実施しているが、今後は、適正実施に向けて問題点等を検証し、改善策を講じることも必要であると考えられる。

学習環境の整備に関して、サテライトを廃止し、Web-ラーニングシステムを導入したことは、社会人院生等への利便性やコスト面からも評価できる。この仕組みを十分に活用するための方策の検討やより効果的な運用方法の確立を期待する。

学生へのキャリア支援に関して、国家試験対策や就職ガイダンスの実施などにより、各種国家試験合格率及び就職率<sup>※4</sup>については高水準を維持しており、高い成果を上げたと認められる。ただし、県内就職率については、平成21年度から5割を切る水準で推移しているため、県内就職率を高めるための具体的な対応策を検討することが必要である。

そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。

※2 アメリカの大学で確立した概念で、自由人に相応しい特定の職業のためではない一般的な知力を開発する学芸を意味する。法人では、幅広い教養・知識を身に付けた専門職業人を養成するための学問という意味で用いている。

※3 学生が大学に円滑に適応し、目標を達成することを支援するための科目。

※4 H24 主な国家試験合格率 助産師100%、看護師99.0%、理学療法士93.5%、社会福祉士62.0%、管理栄養士97.0%。

H24 卒業生就職率 学部全体99.1%（H25.5.1現在）。うち、県内就職率46.5%。



(2) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）

評価

4：中期計画の達成に向けて  
順調な進捗状況にある。

研究内容に関して、学科横断的・学際的プロジェクト研究の推進において、自殺予防プロジェクトなどの地域社会の要請と課題に応じたプロジェクトが展開されている点は評価できる。しかしながら、新規プロジェクトの立ち上げの検討に遅れが生じており、引き続き、積極的に取り組むことを期待する。

研究水準及び研究成果に関して、教員による論文投稿数等は、前年度よりも低下し、年度計画を十分に実施しているとは言えない。投稿論文数の増加とともに、その内容の質をより高める取組を行うことを期待する。

そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。

(3) 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）

評価

4：中期計画の達成に向けて  
順調な進捗状況にある。

キャリアアップ教育の実施において、セカンドレベル教育課程<sup>※5</sup>を開講するにあたりディベート演習に工夫を加えたことにより、講義内容を充実したことは評価できる。今後は、受講者へのアンケートの実施等による成果の検証が望まれる。

国際交流において、社会情勢や東日本大震災後の風評被害により新たな連携の構築や交流の推進が困難な状況は理解できる。今後は、大学の特性を踏まえ、交流目的を再検討し、教育や研究において具体的な成果が得られるような取組を行うことが必要と考えられる。

そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。

※5 グローバルな視点を持ちつつ、自己の果たすべき役割を認識し、現状に即した実践ができ、検証結果に基づいた看護サービスの質の向上と改善を実践する第一線監督者となる看護管理者の育成をめざす。

(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画

評価

4 : 中期計画の達成に向けて  
順調な進捗状況にある。

運営体制の改善に関して、規程等に基づき監事監査や内部監査が実施されているが、それぞれの目的を踏まえ、期待される効果が十分に発揮され、監査結果を業務改善等に活かすことができるよう、監査業務体制を検証する必要があると考えられる。

人事の適正化に関して、優れた教育研究者の確保については、教員の公募や任期制の拡充など、総じて順調に年度計画が実施されていると評価できる。一方、教員人事評価結果の給与への反映について、学科間における評価結果の分布に違いが生じることなどにより実施しないこととしたが、今後も人事評価システムを組織・個人の目標実現に活用していくためには、現行のシステムを検証し、機能的な仕組みに再構築することが望まれる。

そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。

(5) 財務内容の改善に関する目標を達成するための計画

評価

4 : 中期計画の達成に向けて  
順調な進捗状況にある。

外部研究資金その他の自己収入の増加に関して、外部研究資金の積極的導入においては、採択・獲得件数が増加傾向にあることは評価できるが、獲得金額が前年を下回り目標に達していない。外部研究資金の更なる獲得に向け、新たな取組方策を検討することも必要であると考えられる。

経費の抑制に関して、光熱水費の削減率が重油価格の高騰により年度計画の目標を達成していないものの、様々な観点から業務を見直し、合理化・効率化を実践してきたことは評価できる。なお、人件費の縮減については、教育研究の質の確保に配慮しつつ、職員数管理計画の推進に取り組むことが望まれる。

そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。

(6) 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画

評価

4 : 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

評価の充実に関して、中期目標・中期計画達成のための自己点検・評価の方法が監事ヒアリングを主体として行われているが、点検評価機能の向上を図る観点から、より効果的な方法について検討する必要があると考えられる。また、公益財団法人大学基準協会の大学認証評価で助言を受けた10項目のうち改善取組中の9項目については、今後も引き続き改善に向けて取り組むことが望まれる。

そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。

(7) その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画

評価

4 : 中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

安全管理に関して、災害に対する危機対応マニュアル等を作成し周知するなど、危機管理に係る意識啓発を積極的に推進したことは評価できる。そのほかの事項に関して、年度計画の目標を達しているものと認められることから、全体として順調な進捗状況にあると評価できる。